

第2学年 算数科 授業構想シート

授業者 松原 千夏

本実践の主張点	数のまとまりを見つけさせ、ブロック操作・図・言葉をかけ算の式と照らし合わせて考えることで、計算の意味やかけ算の成り立つ性質についての理解が深まるだろう。
---------	--

1. 単元名 かけ算

2. 2年A組の子ども

2年A組の子どもたちは、答えは出ているのに、自信がなくて手を挙げない子どもが多い。そのため、発表する子どもに偏りが見られていた。手がたくさん挙がる2Aの子どもにしていきたいと思い、ペア活動を取り入れて考えを確認する時間をとり、どこまで分かっているのか計算や考え方の手順を確認しながら学習を進めてきた。また、友達のを聞いて説明させる活動を取り入れた。はじめはなかなか思うように伝えることができなかったが、友達の真似をしながら上手に発表できるようになってきている。

このかけ算の単元でも、自分の考えに加えて友達の考え方にも目を向け、考察しながら進めていくことで、かけ算の見方・考え方を広げ、深める姿をめざしたい。

3. 何ができるようになるか

探究力	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活や社会の問題、数学の事象を数理的に捉え、そこから数学的な問いを見いだす力。 数学的に表現・処理し、問題を解決する力。
省察性	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決過程を振り返り、得られた結果を考察する。 問題解決過程を振り返り、概念を形成したり、体系化したりする。

4. 何を学ぶのか

① 単元の目標

かけ算を図や言葉に表し、式の意味理解を深め、計算に関して成り立つ性質などを見つける。九九の暗唱に取り組み、生活や学習に活用する力を高める。

② 教材の価値

かけ算の学習は今後の基礎・基本となっていくため、乗法九九を覚えるだけではなく、式の意味を理解させることが大切になる。

かけ算は、1つ分の数や大きさが同じで、それがいくつ分かあるとき、全体の大きさを求める場合に用いられる。指導をしていく際には、「同じ大きさの数のまとまり」を見つけることと、それが「いくつ分」あるのかを数えることを意識づけたい。また、問題場面を図や言葉に置き換えて考え、かけ算の式にするなど段階を踏みながら学習を進めていき、かけ算の意味理解へとつなげていく。

5. どのように学ぶのか

①単元における授業づくりの「しかけ」

探究力を育む 主 : 主体 協 : 協働 活 : 活用	省察性を育む 気 : 気付く 決 : 決める 動 : 動く
主 数学的表現を用いてかけ算の問題場面を繰り返し行う。 協 友達の考え方を知らるためにペア活動や全体共有を行う。 活 使ってきた数学的表現の中から自分の考えやすいものを選択し問題に取り組む。	気 ブロック操作や図に描かせることで同じ数のまとまりに気づかせる。 決 自分の考えや友達の考えから、考えやすい方法で問題を解かせる。

②学習内容を理解し、資質・能力を育成するための学習過程

単元計画（全 23 時間）	本時 21 / 23
第 1 時 九九の導入【態】	第 13 時 8 の段の唱え方【知・技】
第 2 時 何個のいくつ分【知・技】	第 14 時 練習問題【態】
第 3 時 倍について【思・判・表】	第 15 時 6 の段の九九構成・唱え方【思・判・表】
第 4 時 5 の段の九九構成【思・判・表】	第 16 時 4 の段の九九構成・唱え方【知・技】
第 5 時 5 の段の唱え方【態】	第 17 時 7 の段の九九構成・唱え方【思・判・表】
第 6 時 2 の段の九九構成【思・判・表】	第 18 時 1 の段の九九構成・唱え方【知・技】
第 7 時 2 の段の唱え方【知・技】	第 19 時 練習問題【態】
第 8 時 9 の段の九九構成【思・判・表】	第 20 時 かけ算をつかった問題【思・判・表】
第 9 時 9 の段の唱え方【知・技】	第 21 時 L 字に並んだ図をかけ算を使って求める
第 10 時 3 の段の九九構成【思・判・表】	【思・判・表】
第 11 時 3 の段の唱え方【知・技】	第 22 時 まとめ【知・技】
第 12 時 8 の段の九九構成【思・判・表】	第 23 時 たしかめ【態】

6. 何が身に付いたか

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	かけ算の意味やかけ算が用いられる場面、九九の構成について理解する。また、かけ算の式に表したり、九九を唱えたりして、問題を解いている。	ブロック操作や図、言葉での表現をもとに、かける数が1増えると積はかけられる数だけ増えることを使って、九九を構成している。	かけ算や九九のよさが分かり、進んで用いようとする。

算数科学習指導本時案

授業者 松原 千夏

日時：令和2年12月16日（水）第2校時（9：45～10：30）

対象：第2学年A組 29人

本時の主張点	自分の考えを友達に伝えたり、友達の考え方を説明したりすることで、いろいろな見方・考え方があることに気づき、まとまりを足したり引いたりして主体的・協働的に考える姿が見られるだろう。
--------	---

1. 本時の構想と学習課題について

本時では、かけ算を活用する問題場면을提示し、みかんの数はいくつあるのか考えていく。縦に見たり横に見たりして同じ数のまとまりを作り、足したり、引いたりして総数を求める。また、式・言葉・図があらわしている部分はどこなのか説明できるようにする。自分の考えだけではなく、友達の考えを説明する学習場面を設定することでいろいろな見方・考え方を引き出す姿を期待する。

2. 本時における探究の質を高める場面と授業づくりの「しかけ」について

本時までには、全体の数を求める問題に取り組んだことはあるが、一部がなくなっている問題場面に出合ったことがない。はじめに図を提示し、自分の方法で考えさせて発表させる。子どもたちの考えの中から、まとまり同士を足す考え方を取り上げる。そこで、「一部がなくなっている図も、まとまりを作って足せば数を求めることができる。」と確認する。はじめに全体を見せ、そこから一部がなくなっていることを意識づけておけば、「引く方法もある。」といった反応があるだろう。本時ではそこを「しかけ」とし、まとまりを作ってかけ算をして部分同士を足す方法とは違う計算方法の見方・考え方に気づかせたい。

本時の中で児童から出てくるだろうと予想する見方・考え方は、図を分割して考えて足す方法。もう一つは、ないものをあるものとして考える補完の方法である。ないものをあるものとして考えた子どもに式だけ発表させ、どのようにして考えたのかをペア活動で考えさせる。

授業のまとめでは、どの考え方にも共通することは何かを問い、どの考え方も数のまとまりを作って考えていたということ自分の考えと友達の考えを比較させ、省察できるようにしたい。

3. 本時における評価活動について

本時ではどの考え方が分かりやすかったのか考察させ、評価させる。評価させておくことで、これからの学習の中で同じような問題場面に出会ったとき、多様な見方・考え方ができることに気づき、どの考え方が問題に適しているのか考えられるような、価値ある評価活動につなげたい。

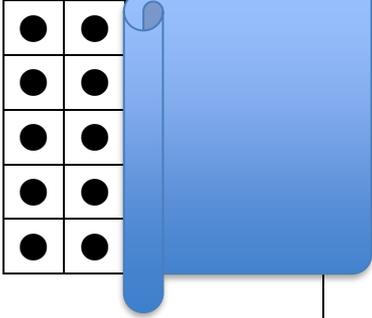
4. 本時の目標

図から数のまとまりをつくり、かけ算を使った式に表して計算の説明をすることができる。

5. 本時において働かせたい見方・考え方

くらべる つなげる まとめる わかる 予想する 見方を変える

6. 本時の展開

学習活動と予想される子どもの反応	留意点・評価
<p>1. これまでの学習をふり返る</p> <p>2. 本時の学習を知る</p> <p>図を左1行だけ見せる</p> <p>○●が5こあるよ。</p> <p>○5のまとまりが1つだ。</p> <p>左の2行目まで見せる</p> <p>○大きさから5か6行ありそうだ。</p> <p>図の全体を提示する。</p> <div data-bbox="512 1048 783 1115" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-left: 20px;">ないところもあるけど</div> <div data-bbox="400 1115 1187 1182" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-left: 20px;">めあて 数のまとまりから、かけ算をつくって考えよう。</div> <p>3. 個人思考</p> <p>○5のまとまりから作ろう</p> <p>4. 全体共有</p> <p>○わたしは、図をたてに見て・・・</p> <div data-bbox="560 1435 1031 1503" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-left: 20px;">◎引く考え方ってどういうこと？</div>	<div style="text-align: right;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 同じ数のまとまりに目を向けさせる。 ・ めあての吹き出しは子どもの言葉から考える。
<p>○分からない</p> <p>○わたしはこの方法で考えたよ</p> <p>5. ひき算を使う方法をペアで考える。</p> <p>6. 全体共有</p> <p>7. ふり返り</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ないものがあるものとして考える。 ・ どの考え方が分かりやすかったか書き、その計算方法について説明を書く。 <p>思図から数のまとまりをつくり、かけ算を使った式に表して計算の説明をすることができる。</p> <p style="text-align: right;">【ノート・発言】</p>

各教科・領域において習得した知識の活用・発揮が促され、互いの探究のプロセスが充実していくイメージ

第2学年 算数科 授業者：松原 千夏

●単元名：「かけ算」

